

8. 共催・協力事業

センターには、さまざまな地域団体や行政、学内他部署などから事業への協力依頼があります。センター内でどのように関わっていくのかを検討し、多くの場合、学生スタッフやコーディネーターが協働でそれらの依頼に対応しています。

事業名	百縁夕食への出展
実施日	深草：2021年12月20日（月）～22日（水）・24日（金）／2022年1月6日（木）・11日（火）～13日（木） 瀬田：2021年12月10日（金）・13日（月）・17日（金）・22日（水）・24日（金） 2022年1月7日（金）・17日（月）
実施場所	深草：成就館1階 ensquare1 瀬田：青志館食堂1階
実施主体	龍谷大学親和会 ボランティア・NPO 活動センター（協力）
来場者数	111名（深草55名、瀬田56名）※来場者アンケート回答者

1. 経緯・目的

龍谷大学親和会主催の『百縁夕食』に展示物の出展という形で協力をしました。

百縁夕食は、龍谷大学の全学生を対象に1食100円で栄養バランスの取れた夕食を提供するイベントです。コロナ禍で経済的支援が必要な学生や、卒業研究・試験勉強・課外活動等で頑張る学生に、『経済支援』・『健康支援』を目的に開催されました。

今回は協力という形で、センターの認知度向上と社会問題に対する問題提起を目的に深草・瀬田それぞれで展示、ブース出展を行い、百縁夕食の来場者に呼びかけをおこないました。

2. 概要

①深草キャンパス

深草キャンパスでは『volustagram』での展示物を利用して、深草地域におけるハザードマップやAEDの設置場所などを紹介しました。またセンターや学生スタッフに関する展示も実施し、センターの認知度向上に努めました。

②瀬田キャンパス

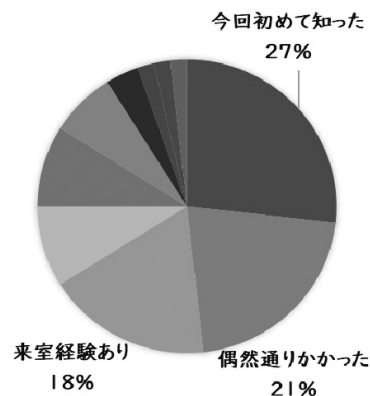
瀬田キャンパスでは青志館食堂でのブース出展、壁新聞の展示、動画上映を実施しました。センター主催企画の周知や、ボランティアをより身近に感じてもらえる展示など工夫をしてセンターについて紹介しました。

③両キャンパス共通

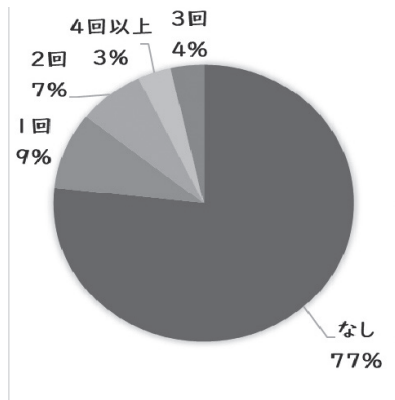
期間中は学生スタッフでシフトを組み、案内が出来るように配慮しました。また来場者にはアンケートを実施し、回答してくれた人には親和会提供の景品を配布しました。

アンケートの回答として、『センターの事を知らなかったのでいい機会になりました。』、『様々な社会問題に目を向けていて、とても関心しました。』といった回答がありました。また瀬田のアンケートでは『以前来室した事がある』との回答が18%に留まり、学内での周知をもっと高めていく必要性を感じました。

アンケート結果※抜粋

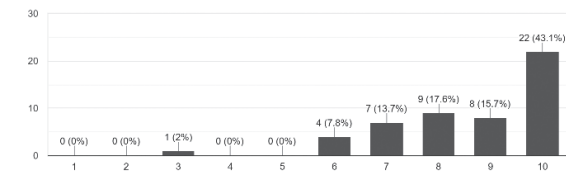


瀬田：センターを知っているか



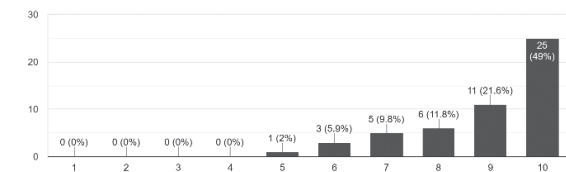
瀬田：ボランティア経験について

展示全体を通しての満足度はどのようなものでしたか。
51件の回答



深草：展示の満足度

展示から学ぶことはありましたか。
51件の回答



深草：展示からの学びはあったか

3. コーディネーター所感

今回は親和会からの依頼があり、出展の機会をいただきました。百縁夕食の利用者は多く、帰りに多くの学生が立ち寄ってくれました。センターに来室した事がないという学生も多くいたため、大変有用な機会だったと考えます。実際にその後センターへ来室してくれた学生も数多くいました。

下宿等で大学の近辺に住んでいてもコロナ禍の影響で地域を知らないという声も多くあり、ハザード

マップやその他防災に関する展示に興味を示してくれる学生が多かった印象です。

これまでセンターは学内他部署と連携した事業が多くはありませんでした。今回の機会でも来場してくれた学生はもちろん、関わってくれた親和会や学生部の職員の方々にもセンターについて理解してもらう事ができたと感じました。今後もこのような学内他部署との連携を強化し、センターの認知度向上に努めたいと思います。

〈報告者：吉田 裕貴

(深草キャンパス コーディネーター)〉



事業名	『手ぶらで夕飯 GET！？えらべる★おすそ分け』への協力
実施日	①2022年1月19日（水）配布13時00分～15時00分／社協との懇談会15時30分～16時30分 ②2022年1月21日（金）配布13時00分～15時00分
場所	①配布：瀬田キャンパス 青志館生協食堂前／懇談会：ボランティア・NPO 活動センター ②瀬田東市民センター
実施主体	大津市社会福祉協議会（ボランティア・NPO 活動センターは協力）
参加人数	①配布人数 91名／ボランティア学生数 5名／社協との懇談会参加人数 7名 ②配布人数 19名／ボランティア学生数 3名

1. 経緯・目的

2016年度より、龍谷大学と大津市社会福祉協議会で「災害ボランティアに関する協定」を締結しています。その他にも、本学社会学部生の実習受け入れや、センターにはボランティア募集情報を提供いただくなど、同社協とは様々な形で連携しています。

同社協では多様な支援事業に取り組まれており、市民の方から多くの支援物資が届けられているため、コロナ禍などで困っている本学学生を対象に食料支援を実施できないかとの相談がセンターにありました。

この提案は、社協で実習中の本学学生によるもので、調整の結果、瀬田キャンパスと瀬田東学区市民センターで1回ずつ配布することになりました。

2. 概要

以下の通り、センターが学内広報や当日の運営などに関わりました。

○支援物資の配布

社協から持ち込まれた支援物資を、社協職員と共にボランティア・NPO 活動センター学生スタッフや社協で実習中の本学学生、民生委員の方などで小分け・陳列し、事前申込した学生に配布しました。一人当たりの配布量は、以下の通りです。

- ・米2キロ程度
- ・カップ麺2個
- ・レトルトカレー・袋麺・缶詰 各1個
- ・Tシャツ、タオル類など
- ・ポケットティッシュ（社協の広報として）

○社協懇談会（1月19日のみ）

「社協ってどんなところ？大津市社協の取り組みについて話を聴いてみよう！」と題し、社協について学生に知ってもらうことや、センターとの連携強化のため、配布時間終了後に社協職員の方から以下



のお話を伺いました。

- ・社協の取り組み全般
- ・コロナ禍での社協の取り組み（特例貸付希望者への対応など）
- ・常設の災害ボランティアセンターについて

など



○事前広報

3. 参加者の声

○支援物資を受け取った学生

- ・バイトが減り、節約していたので食料をもらえてありがたかった。
- ・下宿生だけでなく、実家生も対象にしてもらえてうれしかった。

○配布運営に協力した学生スタッフ：

- ・先輩と一緒に活動し、先輩が笑顔で雑談を交えながら配布している姿を見て、それを真似してやってみようと思いました。また、社協の方と世間話や農業の話などができ、楽しかったと同時に、これからの学ぶ方向を考えることができました。

○社協懇談会に参加した学生：

- ・社協が何かも何をしているかも知らなかったの
で、相談など生活支援をしていたり赤い羽根共同
募金の事務局をしていること、民間団体であるこ

とを知れて良かったです。実態を踏まえつつ話してくださったのでわかりやすかったです。こういった活動を知っている人が少ないのはもったいないと思いました。

- ・生活福祉貸付金や特例貸付金について全然関心がなかったけど、話を聞いて一人ひとりに関わる重要なことだと分かりました。

4. コーディネーター所感

大津市社会福祉協議会より、「社協に集まった米をはじめとした支援物資を活用して学生を応援したい」という連絡をいただき、今回の食糧配付の取り組みとなりました。学内での行事の周知が難しいため、せっかくのご支援が必要な学生に届かないのではないかと懸念しましたが、広報初日に80名を超える申込みがあり、大切な情報が学生にしっかり届いたことに安堵しました。

配付当日は、学生スタッフに配付協力を依頼し、当日の打ち合わせのみにも関わらず、自ら工夫して準備や配付活動に取り組んでいました。また、配布終了後の懇談会においては、コロナ禍の社協の取り組みを中心にお話いただき、参加学生からも多くの質問が出され、学生の熱意に社協の方も熱心に応えてくださり、密度の濃い時間となりました。学生への食糧提供だけでなく、このような機会も得られ大変有意義な取り組みとなりました。

大津市社会福祉協議会および、地域のみなさまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後も連携を密にし、学生や地域にとってより良い取り組みをおこなっていきたいと思います。

〈報告者：國實 紗登美

(瀬田キャンパス コーディネーター)〉

その他報告**■甲南大学地域連携センターとのオンライン交流会**

甲南大学地域連携センターは、学生スタッフ（コーディネーター）のしくみを摸索されている段階で、センターを視察されたことがありました。そのご縁から、新たに学生コーディネーターを迎えられたタイミングで、学生同士の交流ができないかという相談をいただきました。本学の学生スタッフも他大学との交流を試みたいとのことでお引き受けし、センターの取組や学生スタッフの役割、活動等を学生スタッフから紹介しました。

開催日：2021年7月9日（金）

場 所：オンライン（Zoom）

内 容：龍谷大学ボランティア・NPO 活動センターの活動紹介とグループにわかれての質疑応答・自己紹介等

■第4回共生のキャンパスづくりシンポジウムへの出展

本学障がい学生支援室主催のシンポジウムに協力しました。このシンポジウムは障がい学生支援から視座を広げ、コロナ禍において浮き彫りになった学生支援の課題を明らかにすると共に、幾つかの学生支援の取組み事例から、今後大学で取り組むべき学生支援について考えるものです。センターとしては、学生スタッフが作成した展示物を会場出入口付近に展示しました。案内の学生スタッフから来場者の方にセンター紹介や社会問題についての問題提起を行いました。

開催日：2021年12月22日（水）

場 所：龍谷大学深草キャンパス 3 号館102教室

内 容：来場者の方々へのセンター紹介と展示物の案内等